

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	有限会社 慈恵会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7-8		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境作りと家庭的なケア、自立支援に向けたケア、環境美化に努めている。例年同じではありませんが、今現在力を入れている点です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは海が近くにある高台に位置しており、全室見晴らしがよく開放感がある。事業所はサービスに関わる項目に前向きに取り組む、今年度の運営推進会議では様々な情報交換や地域交流が実現している。職員は理念に基づいたサービスについて真摯に検討し取り組んでいる。利用者の日常や病院受診、表情の変化は詳細に支援経過記録に記載され、家族へ報告されている。家族にも現状を共有してもらい共に利用者を見守る体制作りを行っている。介護計画は利用者本位の支援目標が組み込まれ、支援内容は具体的で職員が実践しやすく作成されている。職員は利用者々と和やかに支援、穏やかに見守りを行っている。利用者は精神的にも安心感が保たれて、リビングのこたつでは、利用者と職員の明るく賑やかな会話が弾み、笑顔があふれている。利用者を中心に全員が一体感のあるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念である、「感謝・奉仕・敬意」を念頭に日々のケアに取り組んでいる。	開設時の理念をホーム内に掲示している。毎朝の申し送り時には利用者が居て仕事をさせて貰っていると感謝し、親や祖父母に接するのと同じように優しい言葉かけを心がけるなど理念を念頭に置いた実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや、他事業者との交流を図りながら地域との交流が持てるよう努力している。	周辺地域福祉施設の「ふれあいの歌」に参加し、職員や利用者同士の交流を行っている。地域の祭りに参加したり、ボランティアの草取りや事業所のイベント時の歌やマジック、踊り等の訪問がある。特別支援学校の生徒の体験研修を受け入れるなど地域との交流が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な取り組みは行っていないが、出来る事はしたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度の会議を行っている。(現在6回)色んな意見交換ができ、サービス向上に活かしているといえる。又行政の取り組みも情報として得る事が出来る。ご家族にはホーム便りで報告している。	偶数月に年6回、規定のメンバーで開催している。事業所の状況や外部評価の報告を行っている。事業所から地域交流について提案したところ、草取りのボランティアの申し入れや避難場所の紹介など意見交換が多くあり会議が有効に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の保健師やケアマネ仲間の友人等と情報交換を行ったり、推進委員からの意見等でより良い協力関係は出来ている。	介護認定更新の際等、市担当者に利用者の生活状況を伝えている。また市役所へ行った時は保健師と情報交換している。日頃から介護や研修の情報交換が行われている。市からの要請で研修生の受け入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で取り組んでいる事であり、全職員身体拘束に対しての正しい理解は出来ている。	事業所は開設時から身体拘束をしないケアを実践している。ケアでの気づきや問題があった時はその都度話し合っている。利用者の状態に応じて、職員の目の届き易い部屋に換える等検討している。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じく、全職員注意し防止に努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している方は一名おられ代理人が担当されている。 学ぶ機会があれば是非参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かに説明し、理解と納得は得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に、意見や要望記入の用紙を置いている。周知はできていると思う。	面会時や電話連絡の時などに聞いているが要望意見はなく、毎月送っている介護記録で様子が分かり安心・信頼されている。内部の窓口は重要事項説明書に記載しており入居時に説明しているが外部窓口が不在となっている。意見箱には開設以来投函はない。	利用者や家族から信頼され安心されているが、重要事項説明書に外部相談窓口の明記が無く第三者苦情委員も欠員の状態である。意見箱の設置を含め意見要望を受け入れる体制作りを整備されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最近、スタッフ会議は行っていないが、職員のミーティングは細かく行って議案があれば、管理者が代表に意見としてお願いしそれを反映してもらっている。	職員の意見は毎日の申し送り時やその都度管理者へ伝えている。手すりの設置やポータブルトイレ使用時の手拭、下用タオルの購入など反映された事例がある。但し、共有情報は書面と口頭での伝達方式であり、一同に集まる機会など確実な共有方法が課題である。	毎朝職員ミーティングを開いているが、参加した研修の発表や介護内容の共有など職員全員が集まり話し合える職員会議など工夫検討が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を把握し、各自が向上心が持てるよう条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への積極的な参加を促し、自職への自意識を高められるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とのイベントへの参加や意見交換等積極的に取り組むよう推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する上で基本であり、心身の状況を理解し、生活の中から要望を見つけ出し安心して戴ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いを重ね、要望等を聞き入れながら深い身体関係を築いているといえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との思いや意向を深く理解し、状況を見極めながら、今一番必要なサービスを提供するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に楽しみや喜びを共有したり、個別にお話したりと、日々の暮らしの中で安定した良好な関係は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの思いに寄り添いながら、個々の情報を共有する事で深い話が出来たり、ご本人を支えていく関係は構築できていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店への買い物や、友人との電話や訪問の受け入れ等出来る限りの支援は行っている。	家族や親戚の訪問があるほか、友人からの電話も多くある。職員は利用者の馴染みである理美容院への同行支援や受診の帰りに手芸店へ寄るなど個別ケアで馴染みの場へ外出する機会を作り、関係継続に向けた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間関係や関わりはスタッフ一同充分把握しており、孤立にならない配慮を常に心がけている。又状況に応じた場面作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もスタッフがご本人に会いに行ったり、ご家族からの相談などがあれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話、表情から本人の思いをくみ取り、柔軟に対応している。又困難なケースは周囲やご家族から細かい情報を得て本人本位になるよう努力している。	利用者の日々の会話や表情などから感じ取って対応している。職員は朝の申し送りやミーティングで情報を共有し申し送りノートへ記載している。リビングでテレビを見たり、居室で読書をしたりその人その人の過ごし方を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などご本人やご家族、又は周囲から情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務記録、個別のケース記録、申し送り簿、申し送りノートに詳細に記録しており全てのスタッフは充分把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思疎通、伝達の可能な方はご本人に聞いたり、家族の意見を取り入れたり、又カンファレンスでのスタッフの意見等組み入れたりして介護計画を作成している。	計画は6ヶ月毎に職員の意見と家族や本人の意向を聞き作成している。変化があったときは随時見直し変更している。日々の実践状況は毎朝のミーティング時に報告し、変化があるとその場でカンファレンスを行っている。但し計画作成時に職員の意見や評価の反映が不足している。	日々の実践の報告だけではなく、計画作成時の職員の意見を聞く場の確保など介護計画をチームで作る工夫、検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活面、精神面全て日々の暮らしの中での気づきや出来事を個別に詳細に記録する事で情報を共有している。それをプランにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場、その時のニーズに対応できるよう、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり安心した生活や楽しみが持てるよう、ボランティアの方などの協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけの病院に定期的な受診はできている。状態の変化も担当医に相談もでき適切な指示や処方が受けられている。	かかりつけ医の受診は職員が支援し続けている。受診内容は支援経過に詳細に記録し、毎月家族へ郵送にて報告されている。緊急受診時は家族に電話報告をし、状況に応じて受診時に同行をしてもらっている。協力医との夜間緊急体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師はいないが、受診の際には個別の受診ノートがあり、付き添い介助者が詳細に記録し誰が介助で同行してもわかるようになっている。詳細な情報は共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には詳細な情報を提供している。又主治医や看護師とも密に連絡を取り、ご家族とも情報を交換しながら退院や今後に向けての話は充分行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた話し合いは、早い段階からご家族や主治医と細かく連絡をとり、十分な話し合いを行い、今後に向けた方針を共有している。	重度化や終末期に向けた事業所の指針は契約時に説明し同意を得ている。利用者の状況に応じて主治医や家族を交えて事業所が対応できる最大限の支援を話し合い、地域の他施設への移行なども含め支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の訓練などは行っていないが、応急処置の方法を、スタッフがいつでも見れる場所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度、2回の避難訓練を実施。スタッフ全員避難方法等身につけている。	年2回避難訓練を行い、1回は消防署の立会いである。初期消火訓練、避難経路確認等行われており、毎月防災設備の自主点検も行っている。地域連携も整っている。但し、夜間想定訓練及び通報確認が行われていない。災害対策は運営推進会議で議題にあげり現在検討中である。	職員が一人になる夜間想定訓練は、消防訓練の中で必要であり実施することを期待したい。また職員間の通報訓練も確認されることも望まれる。災害時についても避難場所や持ち出しリストなど検討されることを期待したい。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護する上で一番大切な事であり、全スタッフ常に心がけている事である。	利用者の居室へ入る時のノック、ドアの開閉など配慮している。トイレ誘導時は声をかけたりジェスチャーで誘導している。また羞恥心に配慮して失禁をしないよう支援に努めている。個人情報事務所で管理し、職員は守秘義務を周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉かけや話し方でコミュニケーションを図り出来るだけ自己決定ができる配慮を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれに合ったペースでゆったりと過ごして戴けるよう、希望に沿った支援が出来る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の状況にあったおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや四季を感じられるような食材を取り入れたりと楽しみに繋がるように工夫している。下膳、配膳は出来る方は手伝って戴き能力に応じた支援を行っている。	職員が献立を作成し、利用者の好みや食べた物、旬の素材を取り入れており、咀嚼や体調に合わせた盛りつけを行っている。利用者や買い物に出かけたり、後片付けをしてもらったりしている。ピクニックには弁当を作り、誕生会や季節の行事食など楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、摂取量や水分摂取量の記録をし充分確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当施設取り組んでいる事であり毎食後、その人に応じた口腔ケアを習慣として実践している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックは毎日の業務としており、排泄パターンは全職員把握している。個々に合わせた誘導や声かけを行っている。	排泄チェック表を作成している。時間や仕草で誘導をし、トイレでの排泄の自立支援を行っている。職員はその日の状況を申し送り共有する事により、オムツからパッドや布パンツ、パッド使用の軽減等に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内で出来る運動、食事での食物繊維や乳酸を摂取して頂く事で、出来るだけ自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ではあるが、その人の気分や体調に合わせて柔軟な対応は出来ている。ゆっくりと入浴できるよう心掛けている。	入浴は週3回行われており、状況に応じてシャワー浴や足浴も行っている。同性介助も可能である。車椅子利用者も湯船につかる介助を行っている。職員が1人対応しており、利用者もできる場所まで自立で行っている。湯温や入浴時間など好みに合わせ、柚子湯や菖蒲湯で入浴をゆっくり楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じた対応をして、日中の活動を促し、できるだけ夜間の睡眠がとれるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、スタッフが内容をいつでも把握できるようにしている。個別のケース記録にて症状の変化の確認もできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳、下膳、掃除、洗濯ものたたみ等個々の能力に応じた役割で、楽しみや生きがい、活力に繋げるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に配慮しながら、本人の希望や家族の意向に沿えるよう散歩や地域の催し等に出かけている。	天候や利用者の体調に応じて、ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ等個別に対応している。車椅子利用者も同様に支援している。季節毎に神社参拝や花見、観劇など企画して外出し、利用者が戸外へ出る楽しみを味わえるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をしている人はいないが、買い物などに出かけた際は、可能な限りのサポートを心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのような申し出があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を通じての観葉植物や、四季折々の花々等常に途絶える事なく飾り、季節を感じて頂けるよう又心地よく過ごして頂けるような空間作りを常に心がけている。	玄関やリビングの生け花や植物、飾り付けは季節感があり、利用者の作品やイベントの写真はホームの楽しさの演出に努めている。リビングソファはゆったりと配置され、利用者の憩いの場となっている。換気や掃除は毎朝職員が行い、清潔感と臭気がない空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには、ソファを配置し、皆さんがゆったりとくつろげる空間を設け、入居者同士楽しく、のんびり過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの家具や使い慣れた日用品等を持参して頂き、安心して生活して頂けるよう配慮している。	利用者の居室は、筆筒や椅子、鏡など使い慣れた物が持ち込まれている。利用者の状況に応じて、ベッドや調度類の配置など居心地よく過ごせるように検討している。朝の掃除では利用者も手伝い、快適に過ごせる居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そう状況にあった環境整備や混乱を避ける為の張り紙など、安全にかつ自立した生活ができるよう工夫している。		